

宇宙開発の現状報告

(平成 18 年 7 月 25 日～平成 18 年 8 月 1 日)

平成 18 年 8 月 2 日
宇宙開発委員会事務局

宇宙開発委員会の動き

7 月 27 日 (木)

- ・ 第 3 回計画部会

【井口委員長、松尾委員、青江委員、野本委員、森尾委員】

宇宙開発に関する国内の動向

7 月 31 日 (月)

- ・ 月周回衛星 SELENE (セレーネ) シンポジウム
【独立行政法人宇宙航空研究開発機構】
開催場所：経団連ホール
主な内容：第一部「我が国の月探査計画」
第二部「世界各国の月探査計画」
パネルディスカッション「SELENE 及び将来の月探査への」等

宇宙開発に関する海外の動向

7 月 26 日 (水)

- ・ NASA 土星探査機、タイタンで湖の存在を観測 【米】
7 月 24 日 (月)、米国航空宇宙局 (NASA) は、土星の衛

星「タイタン (Titan)」における液体メタンあるいはエタンの湖の存在を裏付ける証拠を、土星探査機「カッシー (Cassini)」のレーダーシステムにより発見したと発表した。

7 月 27 日 (木)

- ・ ドニエプルロケット、18 個の小型衛星の打ち上げに失敗

【露】

7 月 26 日 (水) 19 時 43 分(世界標準時)、ロシア連邦宇宙局 (FSA) は、バイコヌール宇宙基地より、ドニエプルロケットを打ち上げたが、打ち上げ 86 秒後に第 1 段エンジンが緊急停止し、日本大学の「SEEDS (シーズ)」をはじめとする 18 個の小型衛星の所定の軌道投入に失敗した。

7 月 28 日 (金)

- ・ ロコットロケット、韓国の多目的衛星の打上げに成功

【露、韓】

7 月 28 日 (金) 7 時 5 分 (世界標準時)、Eurockot Launch Services は、プレセツク射場より、ロコットロケットを打上げ、韓国の多目的衛星「KompSat2」の所定の軌道投入に成功した。打上げ時のペイロードは約 800 kg。

7 月 31 日 (月)

- ・ 南アフリカ政府、宇宙機関設立を承認 【南ア】

7 月 28 日 (金)、南アフリカ政府は、自国の科学技術プログラムを調整・実施する機関として、南アフリカ宇宙機関の設立を承認した。同機関は、南ア宇宙評議会及び関連機関との緊密な調整を行い、同国の宇宙科学技術プログラムの長期計画の策定及び同プログラムを実施する。

(2) その他

文科省 池原参事官が資料 28-2-1 (現状報告) を説明した後、
井口委員長が下記の発言をした。

井口：射場は〇〇km にわたり〇〇m えぐり取られて、大変な
惨状だったとのことである。日本のような沿岸部の射場
と違って、内陸部の射場は大変ですね。確かドニエプル
は OICETS を打上げましたね。

井口：議事録は目を通していただいたことと思いますので、こ
れでお願いします。

井口：定例会議開催の予定を事務局からお願いします。

事務局：次の 2 週間休会にし、次回は 8 月 23 になる。

第 27 回宇宙開発委員会 議事要旨（案）

（議事次第と重複する情報のため記載を省略）

5 出席者

宇宙開発委員会委員長

井口雅一

宇宙開発委員会委員

松尾弘毅

〃

青江 茂

〃

野本陽代

〃

森尾 稔

文部科学省研究開発局長

森口泰孝

〃 大臣官房政策評価審議官

藤田明博

〃 大臣官房審議官

板谷憲次

〃 研究開発局参事官（宇宙航空政策担当）

池原充洋

〃〃 宇宙開発利用課長

奈良人司

〃〃 参事官（宇宙航空政策担当）

付宇宙国際協力企画官 坂口昭一郎

6 議 事

(1) H-2A ロケット 10 号機及び M-V ロケット 7 号機の打
上げについて

① M-V ロケット 7 号機の打上げに係る安全の確保に關す
る調査審議について

M-Vロケット7号機による第22号科学衛星(SOLAR-B)の打上げに係る安全対策について説明があった後、原案どおり了承した。(資料委27-1-1参照)

② H-2Aロケット10号機及びM-Vロケット7号機の打上げについて

独立行政法人宇宙航空研究開発機構(河内山理事、森田プロジェクトマネージャ)より、H-2Aロケット10号機及びM-Vロケット7号機の打上げ予定日、M-Vロケット7号機の準備状況及び実施計画、並びに今後のM-Vロケット等について報告があった。

井口委員長及び青江委員より、今後のM-Vロケット等について、宇宙開発委員会としては、計画部会において次期「宇宙開発に関する長期的な計画」の検討を行っており、計画部会の下に設置する輸送系ワーキンググループにおいて、宇宙輸送系全体を見渡しつつ議論したい旨の発言があった。

松尾委員より、新規計画については、基本形に加えて十分に有用性、新規性を盛り込んだ方向で検討することを期待する旨の発言があった。

(資料委27-1-2、委27-1-3、委27-1-4、委27-1-5参照)

(2) 平成19年度概算要求に向けた独立行政法人宇宙航空研究開発機構における重点事項について

事務局(池原参事官)より、平成19年度概算要求に向けた独立行政法大宇宙航空研究開発機構における重点事項について説明があった。

井口委員長より、今後の宇宙開発のプロジェクトにおいては、技術開発と人材育成を一体として考えるべきとの発案があったが、時期尚早のため、2ページ目「また、宇宙開発プロジェクトが長期にわたることを踏まえ、各プロジェクトを担う上級の管理者・技術者の要請を体系的に進める。」を削除した上で決定した。(資料委27-2参照)

(3) その他

① 宇宙開発の現状報告

事務局より説明があった。(資料委27-3-1参照)

② 議事要旨

第26回宇宙開発委員会議事要旨(案)について、原案どおり了承した。(資料委27-3-2参照)